

— 記者発表資料 —



名豊道路 全線開通

～半世紀の夢、つながる！ストック効果～

昭和47年の事業化から約半世紀のときを経て、全線開通する名豊道路のストック効果を取りまとめました。

<概要>

- これまでの開通により、名古屋～豊橋間の所要時間が約30分短縮され、企業の経済活動や円滑な物流に貢献！
- 全線開通により、三河地域がつながることで、
 - －さらに約20分の時間短縮！
 - －日本を支える自動車産業のさらなる成長に寄与
 - －新鮮な農作物をより多く！より早く！輸送
 - －観光・イベント等の地域間交流の促進に寄与
 - －災害・救急時の輸送ルート確保
 など、さらなる効果に期待！
- 名豊道路の整備により、沿線地域の平均地価向上・製造業の発展・雇用の創出など、約50年間で8兆円以上の経済効果※の発現に寄与！

※民間シンクタンクによる試算値

記者発表クラブ

中部地方整備局記者クラブ、愛知県政記者クラブ、豊橋市政記者会、岡崎市政記者会、豊川市政記者クラブ、刈谷市政記者クラブ、安城市役所記者室、西尾市記者室在籍報道機関、蒲郡記者クラブ、豊明記者クラブ、田原市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 名四国道事務所 TEL：052-823-7911
副所長 いわた あきら 岩田 明 計画課長 おおた たかゆき 大田 貴之

つながる中部42.6

令和6年度開通する各道路事業の整備効果や開通に向けての進捗状況など積極的にPR



2050年、世界一、賢く・安全で・持続可能な基盤ネットワークシステムの実現を目指す

World-class Infrastructure with 3S(Smart, Safe, Sustainable) Empowered NETWORK



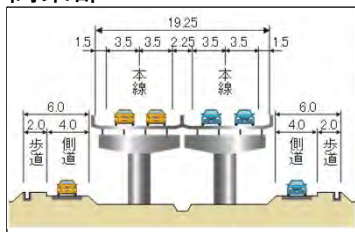
国道23号^{めいほう}名豊道路は、名古屋^{なごや}市と豊橋^{とよはし}市を結び沿線の8市1町を通過する延長72.7kmの高規格道路です。

名豊道路は、知立^{ちりゅう}、岡崎^{おかざき}、蒲郡^{がまごおり}、豊橋^{とよはし}、豊橋東バイパス^{とよはしひがし}の5つのバイパスによって構成されており、所要時間の短縮、物流効率化、災害に強い道路機能の確保等の様々なストック効果の発現が期待されます。

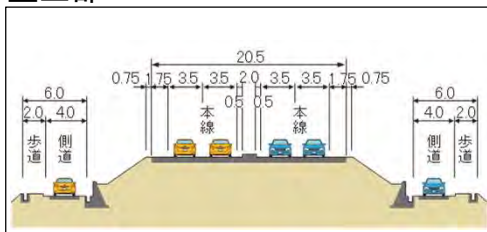


〈標準断面図〉 単位:m

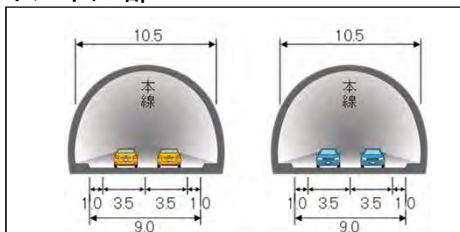
高架部



盛土部



トンネル部



〈関係機関(国土交通省、愛知県、沿線自治体(10市1町))〉



国土交通省



愛知県



豊橋市



岡崎市



豊川市



刈谷市



安城市



西尾市



蒲郡市



知立市



豊明市



田原市



幸田町

これまでの歩み

昭和47年	知立バイパス	西中IC～豊明IC間 事業化(7.0km)
昭和48年	豊橋バイパス	大崎IC～豊川為当IC間 事業化(13.6km)
	知立バイパス	工事着工
昭和49年	知立バイパス	和泉IC～西中IC間 事業化(6.8km)
昭和50年		国道23号(愛知県区間)路線指定
昭和52年	知立バイパス	和泉IC～高棚北IC間 開通(4.2km)
昭和53年	知立バイパス	安城西尾IC～和泉IC間 事業化(2.6km)
昭和55年	岡崎バイパス	幸田須美IC～安城西尾IC間 事業化(9.2km)
	豊橋バイパス	工事着工
昭和58年	豊橋バイパス	神野新田IC～前芝IC間 開通(5.4km※公団含む)
	知立バイパス	西中IC～豊明IC間 開通(7.0km)
昭和61年	岡崎バイパス	工事着工
昭和62年	知立バイパス	野田IC～西中IC間 開通(1.0km)
	岡崎バイパス	幸田芦谷IC～幸田須美IC間 事業化(5.5km)
昭和63年	知立バイパス	高棚北IC～野田IC間 開通(1.5km)
	岡崎バイパス	幸田須美IC～西尾東IC間 開通(2.1km)
平成元年	知立バイパス	安城西尾IC～和泉IC間 開通(2.5km)
		⇒ 知立バイパス 全線2車線開通
	豊橋バイパス	野依IC～大崎IC間 事業化(4.0km)
平成 2年	豊橋バイパス	豊橋港IC～神野新田IC間 開通(1.8km)
平成 4年	岡崎バイパス	中原IC～安城西尾IC間 開通(3.4km)
	豊橋東バイパス	豊橋東IC～野依IC間 事業化(9.2km)
平成 5年	豊橋バイパス	大崎IC～豊橋港IC間 開通(2.2km)
	知立バイパス	上重原IC付近 4車線開通(1.5km)
平成 8年	知立バイパス	西中IC～上重原IC間 4車線開通(1.7km)
平成 9年	知立バイパス	和泉IC～高棚北IC間 4車線開通(3.8km)
	蒲郡バイパス	蒲郡IC～幸田芦谷IC間 事業化(5.9km)
平成10年	岡崎バイパス	西尾東IC～中原IC間 開通(2.2km)
平成14年	知立バイパス	上重原IC～豊明IC間 4車線開通(3.8km)
	豊橋東バイパス	工事着工
平成16年	豊橋バイパス	野依IC～大崎IC間 開通(3.8km)
	岡崎バイパス	幸田須美IC～西尾東IC間 立体開通(2.1km)
平成17年	岡崎バイパス	幸田須美IC～西尾東IC間 立体開通(0.4km)
	豊橋バイパス	豊川橋無料開放
平成18年	知立バイパス	野田IC～西中IC間 4車線開通(1.0km)
	蒲郡バイパス	工事着工
平成19年	豊橋東バイパス	七根IC～野依IC間 開通(2.3km)
	岡崎バイパス	幸田芦谷IC～幸田須美IC間 開通(5.5km)
		⇒ 岡崎バイパス 全線2車線開通
	蒲郡バイパス	豊川為当IC～蒲郡IC 事業化(9.1km)
		⇒ 名豊道路全線72.7kmが事業化区間に
平成20年	知立バイパス	高棚北IC～野田IC間 4車線開通(2.1km)
平成21年	豊橋バイパス	豊川橋3車線化
平成24年	知立バイパス	安城西尾IC～和泉IC間 4車線開通(2.6km)
		⇒ 知立バイパス 全線4車線開通
	岡崎バイパス	藤井IC～安城西尾IC間 4車線開通(1.5km)
	豊橋バイパス	前芝IC～豊川為当IC間 開通(4.2km)
		⇒ 豊橋バイパス 全線2車線開通
	豊橋東バイパス	細谷IC～七根IC間 開通(4.4km)
平成25年	豊橋バイパス	大崎IC～前芝IC間 4車線開通(9.4km)
	豊橋東バイパス	豊橋東IC～細谷IC間 開通(2.5km)
		⇒ 豊橋東バイパス 全線2車線開通
平成26年	蒲郡バイパス	蒲郡IC～幸田芦谷IC間 開通(5.9km)
平成28年	岡崎バイパス	西尾東IC～藤井IC間 4車線開通(4.0km)
令和7年 3月8日	蒲郡バイパス	豊川為当IC～蒲郡IC間 開通予定(9.1km)
		⇒ 蒲郡バイパス 全線2車線開通(予定)



知立バイパス
今川高架橋
施工状況[S52]



豊橋バイパス
(神野新田IC～前芝IC)
開通式・渡り初め[S58]



豊橋東バイパス
(豊橋東IC～細谷IC)
開通式[H25]



岡崎バイパス
(中原IC～安城西尾IC)
開通式[H4]



蒲郡バイパス
(蒲郡IC～幸田芦谷IC)
開通式[H26]



蒲郡バイパス
国坂トンネル貫通式
[H29]



名豊道路全線開通

知立バイパス・岡崎バイパス



〈知立バイパス〉



出典：地理院地図(航空写真)

〈岡崎バイパス〉



出典：地理院地図(航空写真)

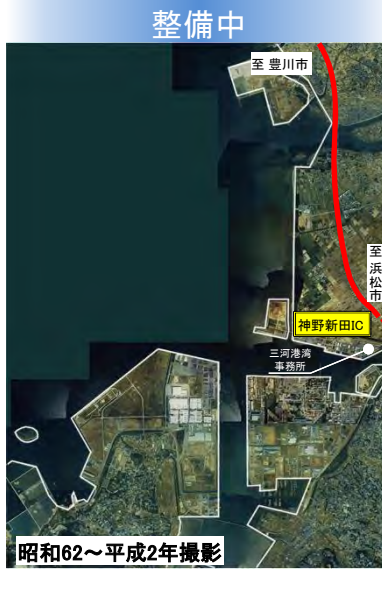
豊橋バイパス・豊橋東バイパス



〈豊橋・豊橋東バイパス〉



〈三河港〉



道路利用者への直接的な効果

WISENET2060への対応

経済成長・
物流強化

低炭素で
持続可能な
道路の実現

別紙5

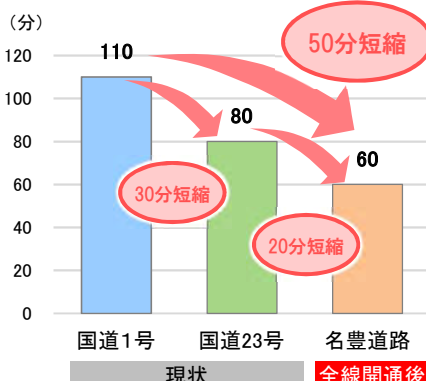
名古屋から豊橋の所要時間が大幅短縮！

- 名古屋から豊橋までは、国道1号を利用すると約1時間50分かかりますが、時速60kmで走行可能な名豊道路の整備により、これまでに約30分短縮しました。蒲郡バイパスが開通し全線開通となることで、さらに約20分短縮されます。
- 慢性的に渋滞する一般道の利用を余儀なくされていた物流車両等が、名豊道路の利用に転換することで、**一般道の渋滞緩和・物流効率化が期待**されます。

○名古屋から豊橋の所要時間



○名古屋から豊橋の所要時間比較 ○一般道の渋滞状況



国道23号 十能交差点(蒲郡市)



国道1号 京次西交差点(豊川市)



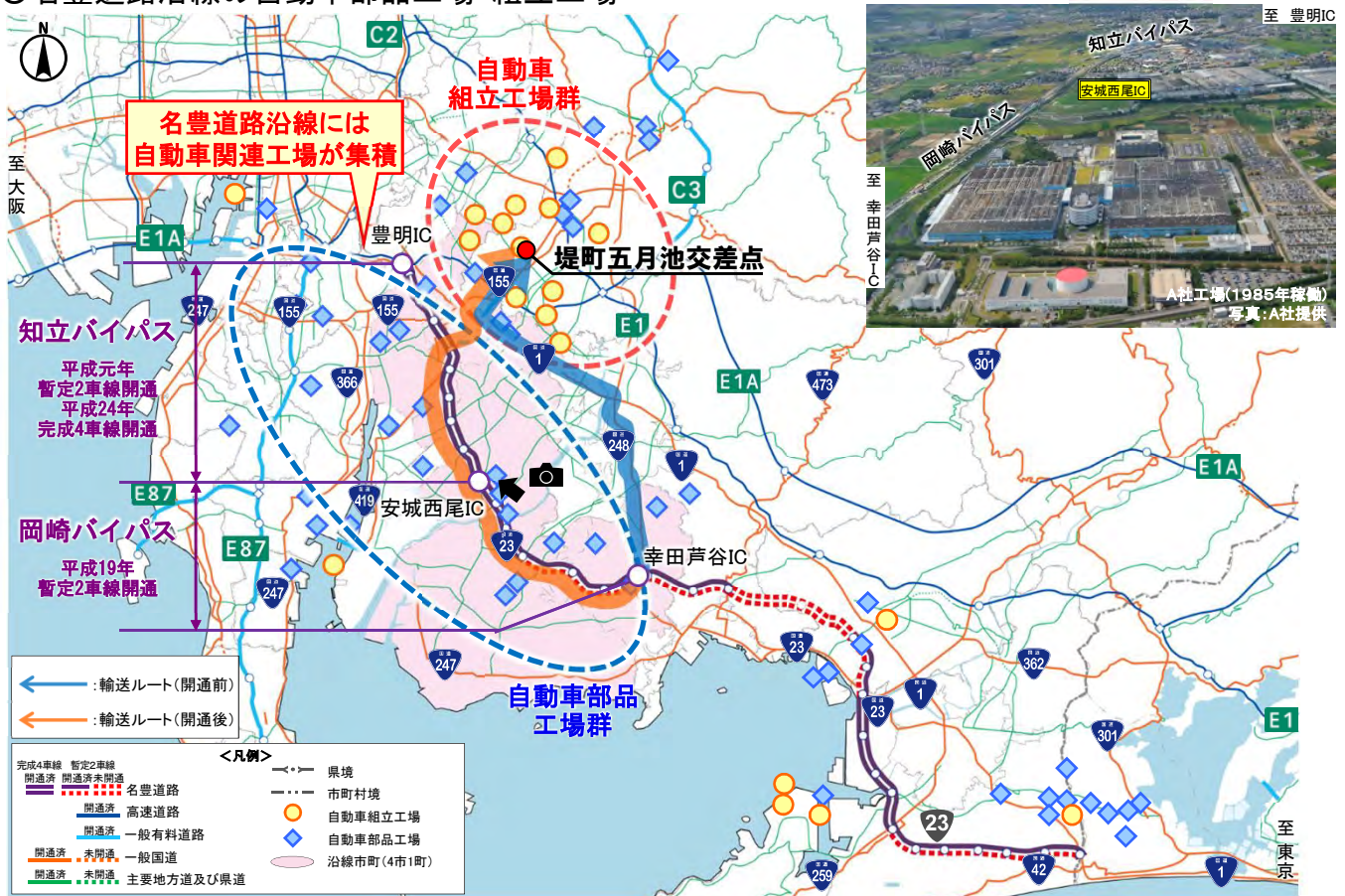
※所要時間算定区間: 豊明IC～西八町交差点(豊橋市役所)

出典: 令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査 昼間12時間平均旅行速度(名豊道路は規制速度(60km/h)、その他市道等は30km/hを採用)

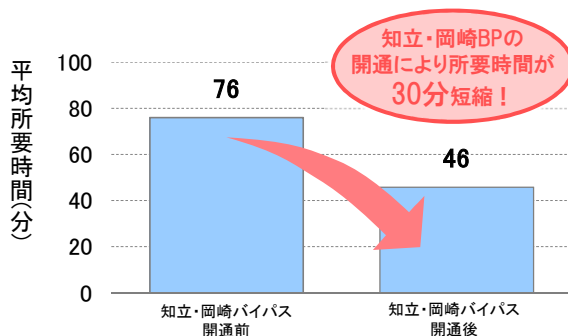
物流効率化により製造品出荷額が増加！

- 名豊道路沿線には、自動車部品工場が多く立地しています。
- 知立バイパスちりゅうおよび岡崎バイパスおかざきの開通により、自動車部品工場から自動車組立工場までの所要時間が約30分短縮しています。
- 沿線市町注1)の製造品出荷額は、全国平均と比較しても高い伸び率を誇り、約6.3兆円増加しています。自動車関連事業をはじめとする企業の経済活動を支援しています。

○名豊道路沿線の自動車部品工場・組立工場

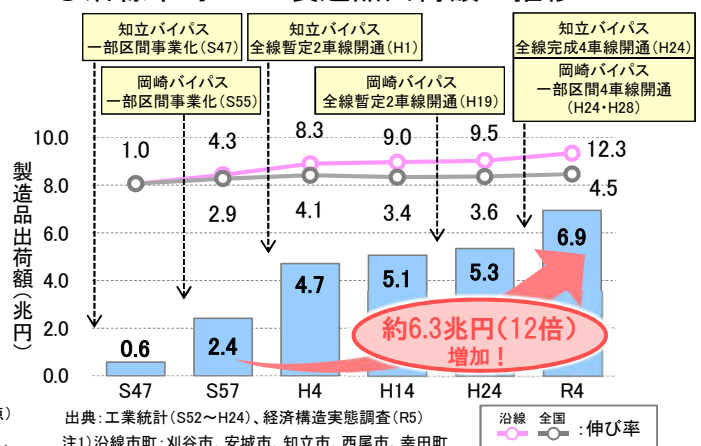


○自動車部品工場～組立工場間の 所要時間の変化



※所要時間算定区間 幸田町(幸田芦谷IC)～豊田市自動車工場(国道155号堤町五月池交差点)
【開通前】国道1号ルート(国道248号～国道1号～国道155号)：
 昭和52年度 全国道路・街路交通情勢調査(7時～19時)
【開通後】国道23号ルート(国道23号～衣浦豊田道路～国道155号)：
 令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査(7時～19時)

○沿線市町^{注1)}の製造品出荷額の推移



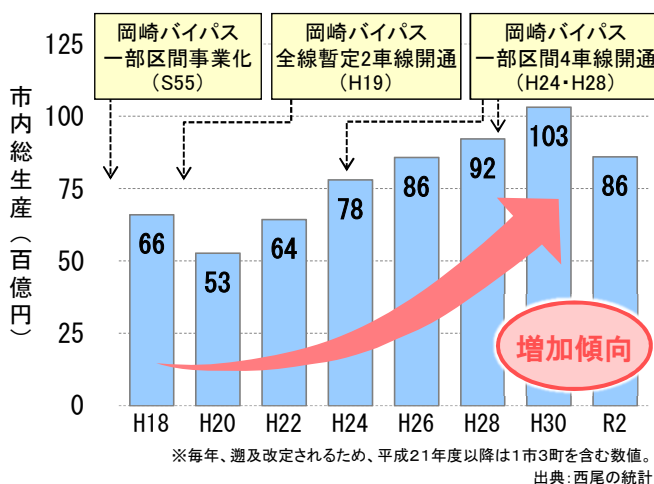
企業立地が進展し地域産業が活性化！

- 西尾市では、岡崎バイパスの整備と共に**企業立地が進展**しています。
- 特に平成24年の藤井IC～安城西尾IC間の4車線化以降で、敷地面積が5,000㎡を超える**事業所が50箇所**進出しています。
- 西尾市の**総生産や従業者数は、堅調に推移**しており、**地域産業の活性化に貢献**しています。

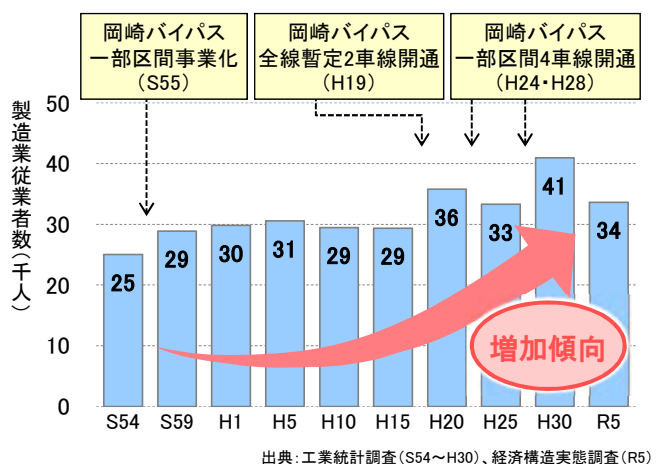
○岡崎バイパス沿線の西尾市で進展する企業立地



○西尾市の市内総生産



○西尾市の従業者数(製造業)



○沿線企業の声

- ・弊社は、納品時の輸送時間の短縮を図るため、今回、4車線化された岡崎バイパスに隣接する岡島江原流通業務団地内に立地しました。
(企業立地担当関係者の声)



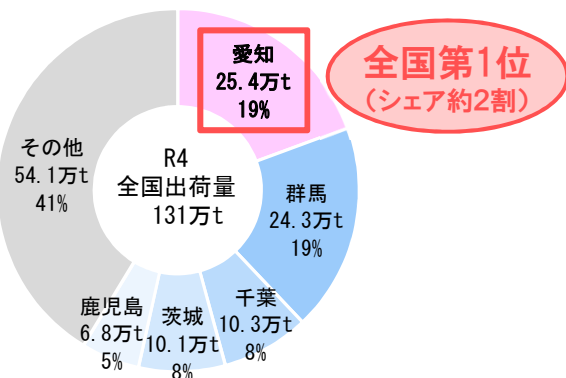
！Cアクセス所要時間短縮！特産物の円滑な流通を支援！

- 愛知県はキャベツの出荷量全国第1位（シェア約2割）を誇り、渥美半島は県内有数の産地であり、出荷量は増加傾向にあります。
- 渥美半島のキャベツは、名豊道路を利用し全国に出荷されており、豊橋バイパスの開通により、東名高速道路 音羽蒲郡 IC までの所要時間が短縮し、特産物の円滑な流通を支援しています。

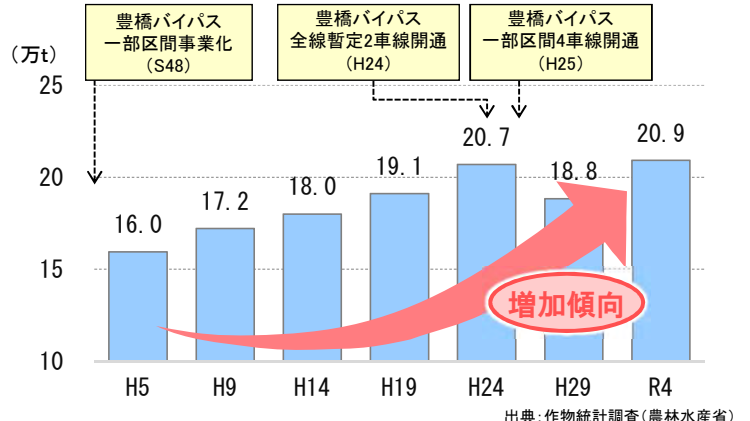
○キャベツの主な出荷ルートと時間短縮効果



○全国に占める愛知県のキャベツの出荷割合



○渥美半島(豊橋市、田原市)のキャベツの出荷量



○沿線地域の声

- ・ 豊橋市のキャベツは、名豊道路を利用し、全国各地に出荷しています。
 - ・ 豊橋バイパスが開通する前は、国道1号を利用して出荷しており、音羽蒲郡ICまで約1時間かかっていました。豊橋バイパスの開通により、所要時間の短縮を実感しています。
 - ・ また、市場まで時間通りに到着できるようになりました。
- (JA豊橋)

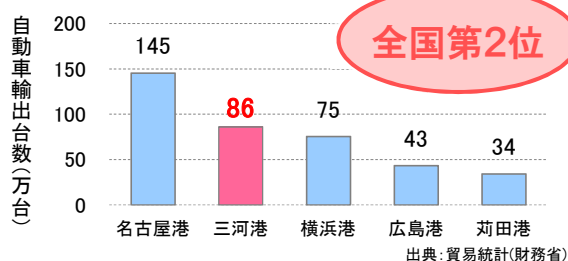
日本を支える「自動車産業」！さらなる成長に貢献！

- 名豊道路に直結する三河港は、完成自動車を含む機械類及び輸送用機器が輸出額の約97%を占め、完成自動車の輸出台数が全国第2位と、全国を代表する完成自動車の輸出港です。
- 名豊道路が全線開通することで、自動車組立工場から三河港までの**完成自動車の輸送時間が短縮**し、さらには**輸送回数の増加等の効果が期待**されます。

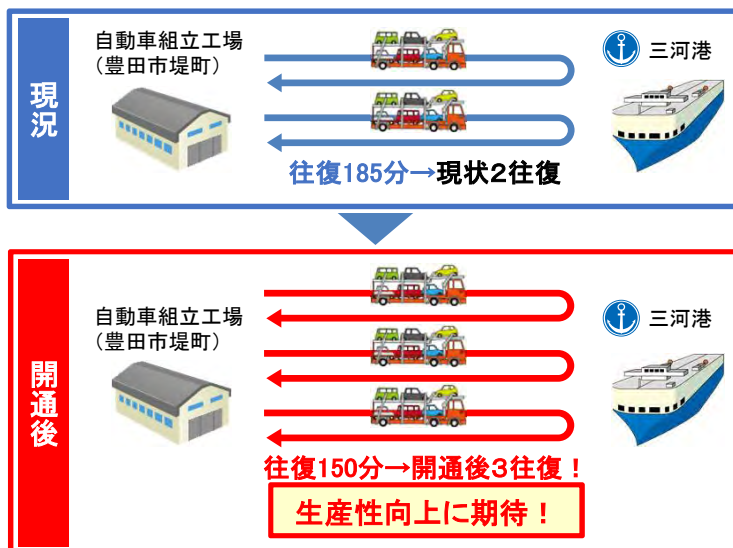
○名豊道路を利用する完成車輸送便数



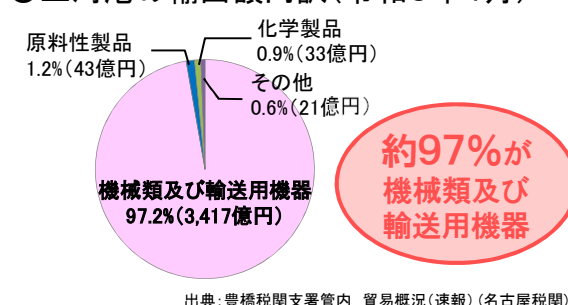
○港湾別自動車輸出台数順位(令和5年)



○開通による三河港への輸送回数の増加



○三河港の輸出額内訳(令和6年4月)



速度条件: (現状)ETC2.0プローブ情報(令和6年6月平日昼間12時間平均旅行速度)
(開通後)既開通区間:ETC2.0プローブ情報(令和6年6月平日昼間12時間平均旅行速度)
未開通区間:現行の規制速度(60km/h)

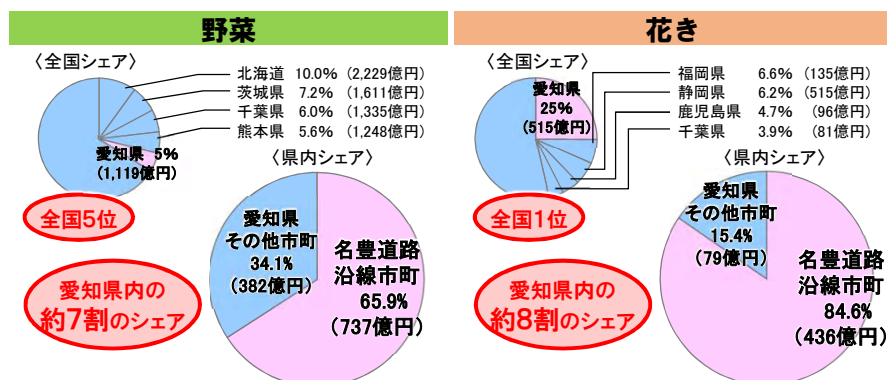
新鮮な農産物をお届け！地域産業を支援！

- 愛知県は、野菜産出額は全国第5位、花き産出額は全国第1位に位置するなど、全国的にも農業が盛んであり、名豊道路沿線市町は、愛知県内の野菜産出額の約7割、花き産出額の約8割を占めます。
- 名豊道路沿線には、多くの卸売市場や農産物出荷場が分布しており、全線開通により、**新鮮な農産物をより早く市場に届けられるようになるなど、地域産業を支援**します。

○名豊道路沿線市町の農産物集荷場及び卸売市場の分布



○名豊道路沿線市町^{注1)}の野菜及び花きの産出額(令和4年)



出典：令和4年 農業総産出額及び生産農業所得(農林水産省)
注1) 沿線市町：豊明市、刈谷市、知立市、安城市、西尾市、岡崎市、幸田町、蒲郡市、豊川市、豊橋市、田原市

○三河地方の主な野菜、花き



・道路整備が進展し、輸送時間が削減されれば、より鮮度の高い状態・荷痛みの少ない状態で輸送できるようになり、納品先からのクレーム減少・評価向上につながると期待しています。
(JAあいち経済連)

出典：名古屋道事務所ヒアリング調査
(令和4年8月実施)



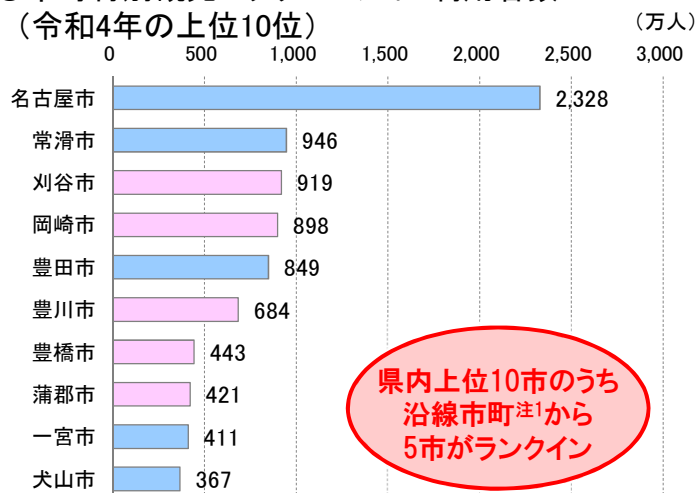
観光周遊・地域間交流を支援！

- 名豊道路沿線市町は、県内有数の観光施設が多数立地しており、観光レクリエーション利用者数 県内上位10市に、5市がランクインするなど、観光産業が盛んな地域です。
- 名豊道路の全線開通により、**名豊道路を軸とした観光周遊や、スポーツイベント等における地域間交流を支援**します。

○名豊道路沿線の観光施設



○市町村別観光レクリエーション利用者数(令和4年の上位10位)

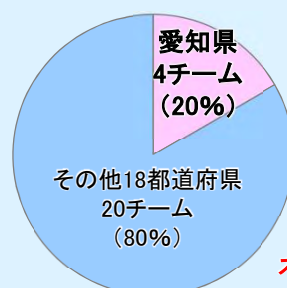


出典: 観光レクリエーション利用者統計(愛知県)

注1) 沿線市町: 刈谷市、安城市、知立市、西尾市、蒲郡市、豊川市、豊橋市、幸田町、豊明市、岡崎市、田原市

【トピック】バスケット王国 愛知県

【B.LEAGUE(B1)全国24チームの所在県】



B.LEAGUE(B1)
全国24チームのうち、
県内に4チーム存在
(全国最多のチーム数)

名豊道路の全線開通により
スポーツイベント等の交流促進が期待！



ファイティングイーグルス名古屋



名古屋ダイヤモンドドルフィンズ



シーホース三河



三遠ネオフェニックス

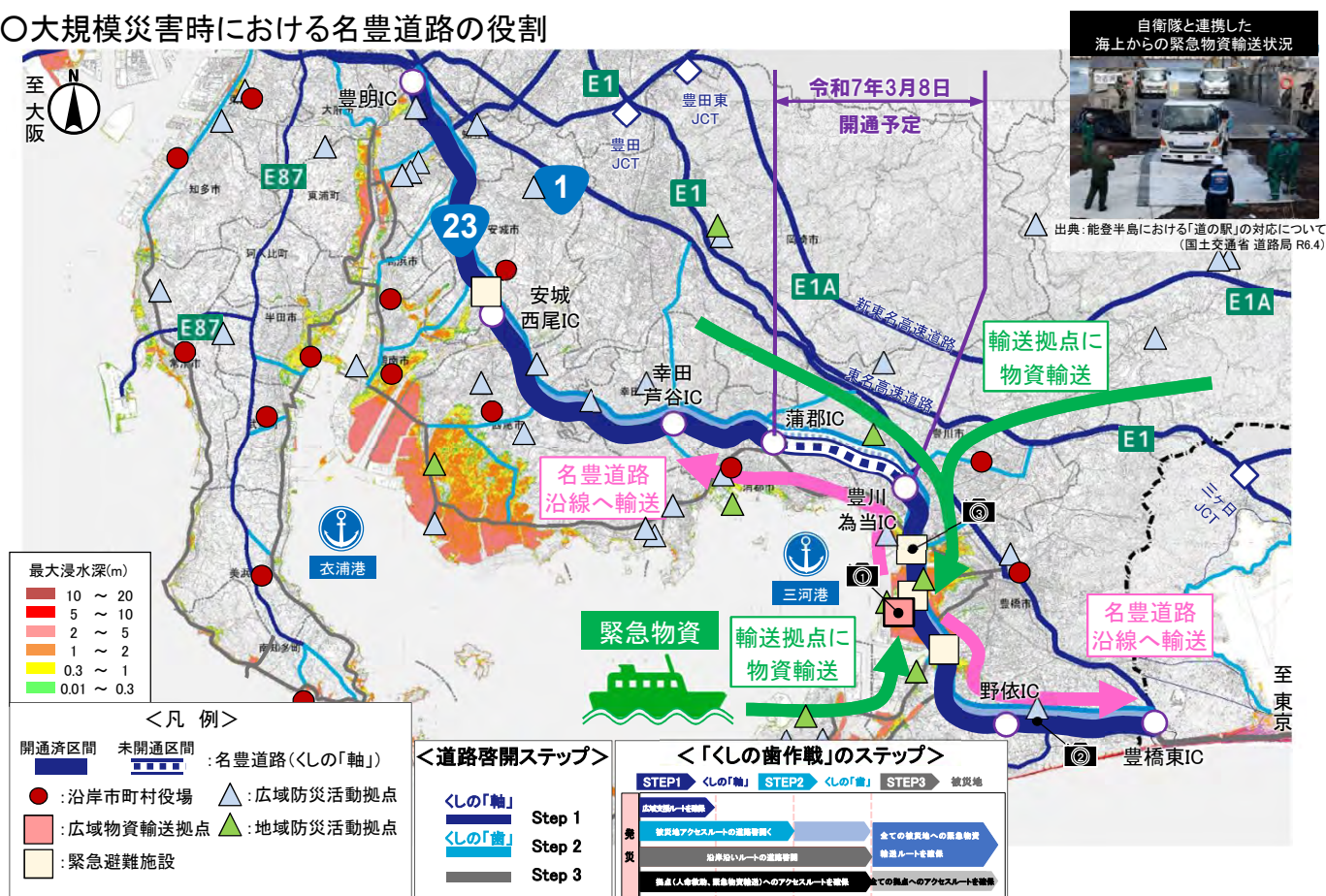
出典: 公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグHP



災害時の迅速な活動を支援！

- 三河地域の太平洋沿岸部は、^{みかわ}東南海地震発生時に津波浸水被害が懸念される地域です。
- 名豊道路は、発災時に優先的に道路啓開を行う「くしの軸」となる広域支援ルートを形成していることに加え、沿線には、**広域物資輸送拠点**や**防災活動拠点**が整備されています。被災時には輸送拠点に供給された物資の輸送や避難人員の移動、救援・救助活動を担う道路として、**災害時の迅速な活動を支援**します。

○大規模災害時における名豊道路の役割



○広域物資輸送拠点 (県内5箇所指定)

【豊橋市総合体育館】

(津波浸水想定区域外)

- ・国等から供給される物資を受け入れ、各市町村が設置する地域内輸送拠点や避難所に向けて、物資を送り出すための拠点



○防災活動拠点

【道の駅「とよはし」】

(地域防災活動拠点)

- ・災害発生時における受援及び応援のための集結・集積活動拠点



○防災・減災、国土強靱化のための 5か年加速化対策例

【盛土法面に緊急避難施設を設置】

- ・津波や洪水時からの浸水避難





救急医療カバー圏の拡大！安心・安全なまちづくりに貢献！

- 幸田町や蒲郡市には第3次救急医療施設が無く、重大事故時に短時間で治療を開始することが救命率の向上に必須です。
- 名豊道路の全線整備により、第3次救急医療施設へのアクセス時間が短縮するとともに、30分以内で到達可能な圏域人口が約1.3万人増加するなど、安心・安全なまちづくりへの貢献が期待されます。

○3次医療施設の30分圏域の変化



○3次医療施設までの所要時間の 変化(幸田町・蒲郡市)

【豊橋市民病院へのアクセス】

【現況】	【開通後】
幸田町 47分	10分短縮 37分
蒲郡市 33分	2分短縮 31分

【豊川市民病院へのアクセス】

【現況】	【開通後】
幸田町 44分	12分短縮 32分
蒲郡市 31分	4分短縮 27分

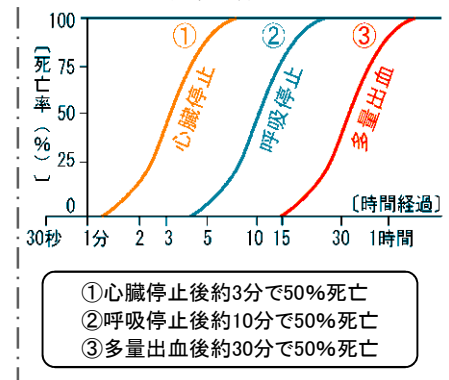
○3次医療施設における30分圏域人口の 変化(幸田町・蒲郡市)

【現況】	【開通後】
8.2万人	約1.3万人増加 9.5万人

3次医療施設への アクセス向上

速度条件
 (現況)ETC2.0プローブ情報(令和6年6月平日7時台旅行速度)
 (開通後)既開通区間: ETC2.0プローブ情報(令和6年6月平日7時台旅行速度)
 未開通区間: 現行の規制速度(60km/h)

【カーラーの救命曲線】



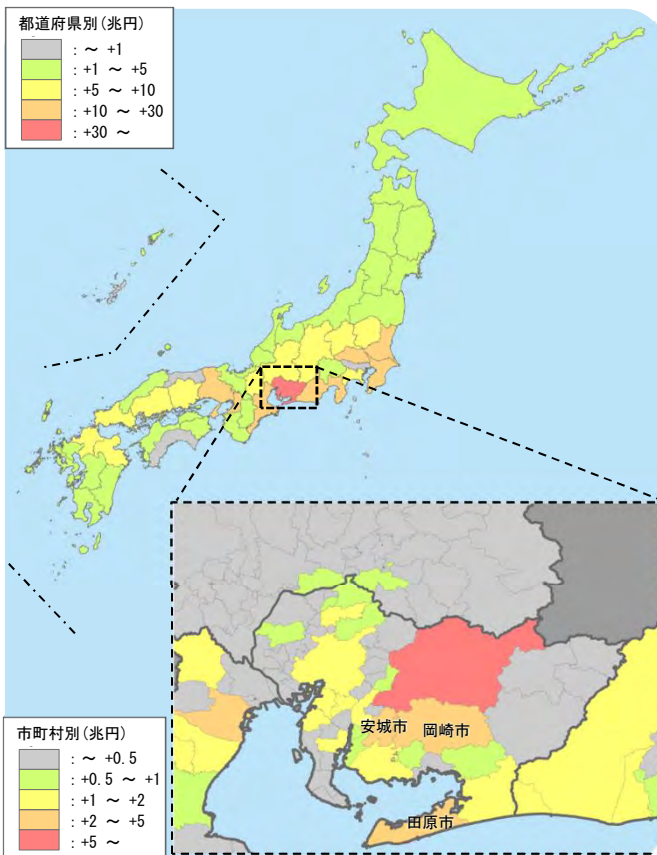
出典: 豊橋市民病院HP

名豊道路沿線地域の経済力の強化

- 名豊道路の開通前となる昭和47年から現在にかけて、製造品出荷額の増加額は愛知県が全国第1位となっています。また、市町村別（中部4県）では、3つの沿線市町が上位10位以内にランクインしています。
- 整備の進展に伴い、沿線市町の地価は全国平均と比べても高い水準で上昇しており、製造業の発展に伴い雇用が創出され、従業者数も堅調に増加しています。沿線地域の経済力の強化が進んでいます。

○製造品出荷額

＜製造品出荷額の増加額（開通前(S47)→現在(R4)＞



【全国 都道府県別】

愛知県が全国1位！

順位	県名	増加額(兆円)
1	愛知県	45.1
2	静岡県	15.7
3	兵庫県	13.5
4	茨城県	13.1
5	千葉県	13.0
6	大阪府	11.5
7	埼玉県	11.4
8	三重県	10.3
9	神奈川県	10.0
10	群馬県	8.2

【中部4県 市町村別】

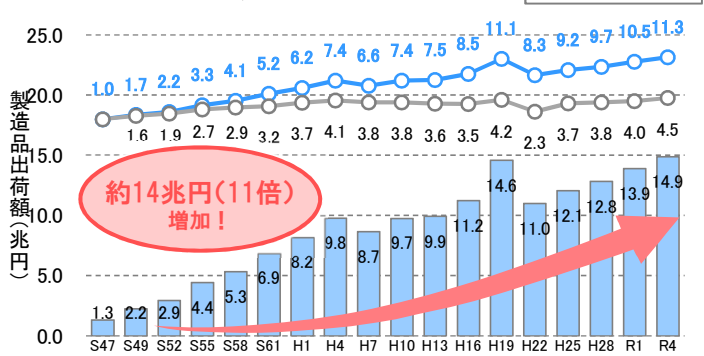
3つの沿線市町※がランクイン！

順位	市町村名	増加額(兆円)
1	豊田市	15.4
2	四日市市	2.9
3	岡崎市	2.6
4	安城市	2.4
5	田原市	2.1
6	静岡市	1.8
7	名古屋市	1.7
8	磐田市	1.6
9	いなべ市	1.6
10	小牧市	1.6

出典:工業統計(S47)、経済構造実態調査(R5)

注1) 沿線市町: 刈谷市、安城市、知立市、西尾市、蒲郡市、豊川市、豊橋市、幸田町、豊明市、岡崎市、田原市

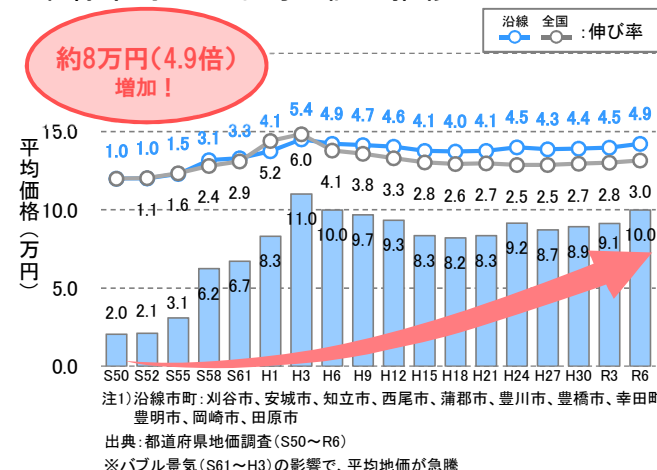
○沿線市町注1の製造品出荷額の推移



注1) 沿線市町: 刈谷市、安城市、知立市、西尾市、蒲郡市、豊川市、豊橋市、幸田町、豊明市、岡崎市、田原市

出典:工業統計(S47～R1)、経済構造実態調査(R5)
※リーマンショック(H20)の影響で、以降、数年にかけて出荷額が減少

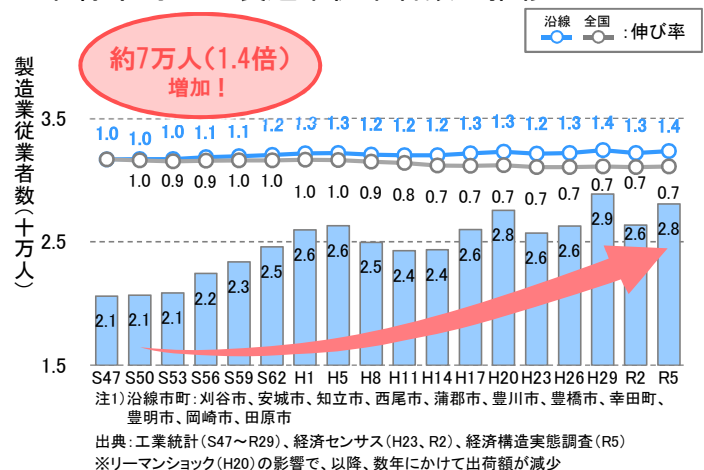
○沿線市町注1の平均地価の推移



注1) 沿線市町: 刈谷市、安城市、知立市、西尾市、蒲郡市、豊川市、豊橋市、幸田町、豊明市、岡崎市、田原市

出典:都道府県地価調査(S50～R6)
※バブル景気(S61～H3)の影響で、平均地価が急騰

○沿線市町注1の製造業従業者数の推移



注1) 沿線市町: 刈谷市、安城市、知立市、西尾市、蒲郡市、豊川市、豊橋市、幸田町、豊明市、岡崎市、田原市

出典:工業統計(S47～R29)、経済センサス(H23、R2)、経済構造実態調査(R5)
※リーマンショック(H20)の影響で、以降、数年にかけて出荷額が減少

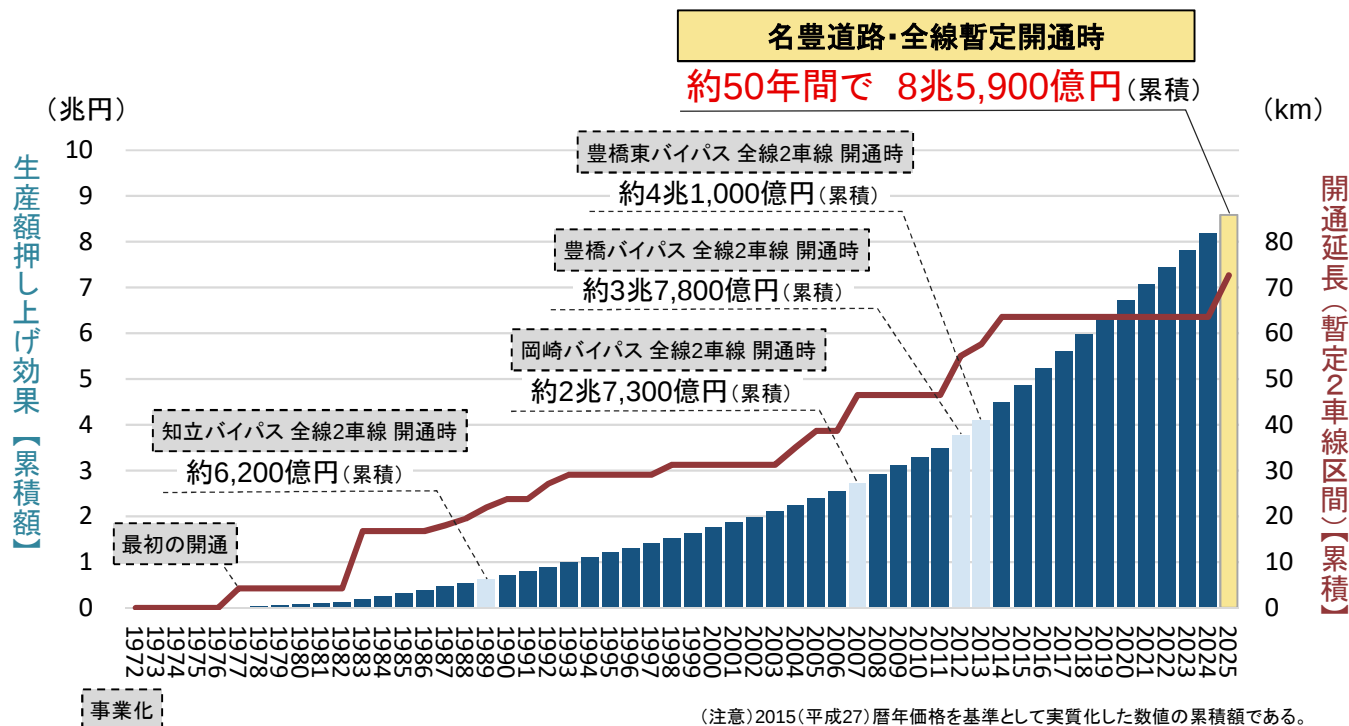


沿線地域等の経済成長を支援！

- 名豊道路は、段階的な開通を積み重ねて、製造業の活動に伴う物流効率化、第2次製品の流通支援など沿線地域をはじめとした地域産業の活性化を実現し、産業活動の飛躍に貢献しました。
- 全線暫定開通時、名豊道路の整備による**生産額の押し上げ効果※**は、最初の開通を迎えた昭和52（1977）年以降の**約50年間で8兆5,900億円（累積額）**に達します。

※生産額の押し上げ効果：分析対象路線の整備あり、整備なし、それぞれの地域間所要時間に基づき推計された経済状況のシミュレーション結果をもとに算出される生産額の増加額のこと。分析対象路線の整備による産業活動への効果として提示。

○名豊道路整備による経済効果（生産額押し上げ効果）の累積額と開通延長の推移



○経済効果（生産額押し上げ効果）累積額の産業構成

名豊道路・全線暫定開通時 8兆5,900億円（累積）



（注意）2015（平成27）暦年価格を基準として実質化した数値の累積額である。

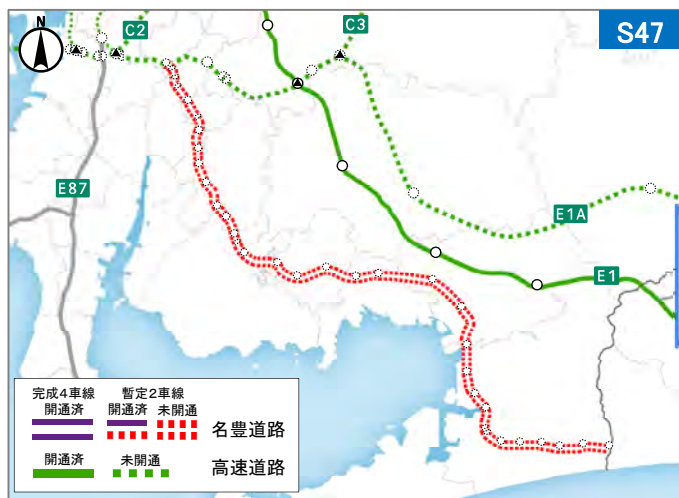
○経済効果の算出条件

- ・汎用型空間的応用一般均衡モデル（RAEM-Light：ラームライト）を用いた算出結果である。この分析方法は、検討対象とする道路の「整備あり」「整備なし」それぞれの地域間所要時間をインプットデータとして、モデルによってそれぞれの経済状況を推計し、純粋な所要時間変化に伴う経済効果を算出する手法である。
- ・2015年の各地域の地域産業の経済規模、地域間の交易状況、そして地域間の道路所要時間に基づき、分析モデルのパラメータが決定され、中部5県（長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）の範囲が対象となっている。
- ・全線暫定開通に至るまでの期間を4つに区分し、区分したケース毎のシミュレーション結果から得られる経済効果として、単年あたりの生産額変化に着目し、名豊道路の整備進展に従い各年の効果が次第に発現する仮定のもと、当該年の生産額押し上げ効果として整理されている。
- ・この生産額押し上げ効果を、GDPデフレーター（2015暦年基準）をもとに実質化し、上記グラフでは当該年までに発現した累積額として示されている。

(参考) 半世紀の道路ネットワークの変化

別紙16

○名豊道路 全線未整備時



○名豊道路 初の開通(知立バイパス 部分開通)



○名豊道路 知立バイパス 暫定2車線開通



○名豊道路 岡崎バイパス 暫定2車線開通



○名豊道路 豊橋・豊橋東バイパス 暫定2車線開通 ○名豊道路 蒲郡バイパス 暫定2車線開通(予定)

